

# 地域の観光活性化に向けた学生による 観光ボランティアガイドの可能性

木内 伸樹

国際コミュニケーション学科

## 1. はじめに

2018年の観光統計によると、海外から日本を訪れる訪日外国人旅行者は年間3,000万人を超える。2020年にはオリンピックという大きな国際イベントを控え、更に外国からの旅行者が増加することが予想されている。戸板女子短期大学が位置するここ港区もオリンピック会場となっており、国内外の大勢の旅行者がこの地を訪れるに違いない。本学の周辺には、都営三田線の「芝公園」をはじめ、東京国際空港（以下、羽田空港と記す）国際線、国内線ターミナル内に直接乗り入れている「東京モノレール」と「京浜急行電鉄」、「都営浅草線」などの駅がある。東京都港区芝地区へのアクセスには「東京モノレール」にて「浜松町駅」、「京浜急行電鉄」では「三田駅」、「大門駅」、「新橋駅」まで乗り換えなしで直接アクセスすることができる。所要時間も国際線ターミナルから約15分、国内線ターミナルから約20分程度で到着できる。また品川からは「JR 東日本」にも接続しており、「日町駅」や2020年度より開業する「高輪ゲートウェイ駅」なども利用できる。

羽田空港は日本全国からの国内路線、2010年からは再国際線化により多くの国際線が就航し、まさに日本を代表する空港である。2018年の国内線、国際線を利用する旅客数は8,750万人で、世界の空港の中でも利用客数で5本の指に入る空港である。2013年に民活空港運営法が施行され、日本の産業、観光等の国際競争力の強化及び地域経済の活性化その他の地域の活力の向上に貢献できるようにすべきであると提言されている。羽田空港を利用する国内外の旅客の中には、飛行機の乗継時間のために長時間空港内に滞在する旅行者、乗継ぎのために空港周辺に宿泊している旅客も多い。近隣地域の観光対象に触

れる機会を作ることで、地域活性化の一端になりえるのではないかと考える。

## 2. 研究の目的

本研究では本学が位置する東京都港区「芝地区」を中心に、国内からの旅行者と訪日外国人旅行者を対象として、地域の魅力をまち歩きをしながら紹介していく学生観光ボランティアガイドの可能性を明らかにすることを目的とする。

本学周辺には、東京の観光名所である東京タワーをはじめ、訪日外国人も多く訪れる増上寺、芝大神宮などの歴史的観光対象も数多く点在する。このような観光名所を訪れる観光者は多いが、観光バスで直接観光施設を訪れ、また大型観光バスなどに乗車して、別の地域の観光対象を巡る観光者も多く、魅力的な歴史的観光資源と観光施設を有しながらも、なかなか大学周辺の観光地を面で捉え、この地域を散策する観光者は多いとは言えない。学生観光ボランティアガイドなどを設置することで、地域の魅力を観光者により深く紹介することができ、この地域の複数の観光対象を訪れる楽しさや魅力に気づいてもらい、さらにこの地域への再訪に繋がられるのではないかと考える。

この地域を訪れる観光者は様々であるが、その中の一つに羽田空港を利用する旅客で、飛行機の乗り換え時間で滞在している旅行者も多い。その乗継ぎ時間を利用して短時間で空港周辺を観光する「トランジットツアー」がある。「トランジットツアー」とは、大辞林によると「飛行機の乗り換え時間を利用して、経由地を短時間で観光するツアーのこと」と定義されている。2017年の航空旅客動態調査によると、羽田空港を乗換え空港として利用するトランジッ

ト旅客数は、平日1日3,709人、休日1日では3,719人であった。また空港滞留時間が121分以上のトランジット旅客数は平日1日で3,136人、休日で6,336人であった。このように羽田空港乗継ぎ旅客数と121分以上の空港滞留時間の旅客は他の国内の空港と比較しても非常に多く、空港から15分～20分程度で訪れることのできる「芝地区」、「芝浦・港南地区」はとても短時間で訪れやすい地域である。

表1. 羽田空港の到着旅客数と乗換旅客数  
(平日・休日)

調査年	羽田空港			
	到着 旅客数	乗換 旅客数	到着 旅客数	乗換 旅客数
	平日 (人)		休日 (人)	
2009 (平成21) 年	48,228	3,931	53,684	4,944
2011 (平成23) 年	38,112	2,361	53,213	3,183
2013 (平成25) 年	43,972	4,102	60,882	5,118
2015 (平成27) 年	47,570	4,311	59,433	5,428
2017 (平成29) 年	43,964	3,709	48,177	3,719

『航空旅客動態調査報告書』より作成

表2. 羽田空港に到着し港区が  
最終到着地の旅客数 (平日・休日)

調査年	到着地	
	港区	
	平日 (人)	休日 (人)
2009 (平成21) 年	2,448	1,301
2011 (平成23) 年	1,576	1,348
2013 (平成25) 年	2,539	1,709
2015 (平成27) 年	2,092	1,451
2017 (平成29) 年	2,102	1,281

『航空旅客動態調査報告書』より作成

表3. 羽田空港滞留時間

調査年	羽田空港	
	空港滞留時間 (121分以上)	
	平日 (人)	休日 (人)
2009 (平成21) 年	2,101	4,041
2011 (平成23) 年	1,722	3,791
2013 (平成25) 年	2,718	5,786
2015 (平成27) 年	3,031	6,378
2017 (平成29) 年	3,138	6,336

『航空旅客動態調査報告書』より作成

また羽田空港は24時間離発着運用されているため、深夜に運航する航空便も増加し、空港内のホテルだ

けでなく空港周辺のホテルに乗継ぎのために宿泊している旅客も多い。空港周辺には次々とホテルが建設されているにも関わらず、予約が取りにくい程の高い稼働率になっていることでも理解できる。空港周辺のホテルに滞在している主な旅客は以下の通りである。

- ① 日本人旅客で海外旅行の前泊または帰国後に宿泊している旅客。
- ② 外国人旅客で乗継ぎのフライトが翌日以降の出発の旅客。
- ③ 国内航空会社、外資系航空会社の運航乗務員と客室乗務員。
- ④ 羽田空港周辺ホテルに観光目的で数日滞在する外国人旅客。

これらの旅客も東京都港区「芝地区」、「芝浦・港南地区」を訪れる旅行者になる可能性は高く、短時間で効率良く観光ガイドに案内されるのであれば、この地区の魅力に気づき、短時間でも訪れることができるということから、この地区を再訪する可能性も高くなると考える。また羽田空港に到着し、その後港区を最終目的地として羽田空港から移動する旅客は2017年の航空旅客動態調査によると、平日1日2,102人、休日1日平均1,281人であった。港区には本社機能を持つ大手企業も数多く位置し、宿泊施設も多く港区のホテル・旅館の宿泊施設の客室数は26,247室と23区全体数の約19%を占める。このように羽田空港から港区にビジネスや宿泊など何らかの目的でやってくる需要も取り込めると考える。特に海外から早朝に到着し、港区に宿泊目的のために移動してくる訪日外国人旅行者は、ホテルに通常15時にチェックインするまで数時間空き時間がある。このような訪日外国人旅行者は、トランジット旅客と同じく日本に到着した初日には観光などの予定を入れているケースは少なく、近隣の観光対象を訪れる時間的余裕がある。このような旅行者も有望なツアー参加者と成り得る。

学生観光ボランティアガイドとしてコース設定を考慮した場合、半日ツアーと同程度の2～3時間のツアーが適切と考え、本学の国際コミュニケーション学科の1年生、2年生の観光関連の授業を履修している学生を対象にツアー作成を試みた。

表4. 23区内の宿泊施設数・客室数とその比率

23区	ホテル・旅館		
	施設数	客室数	全体比率
港区	132	26,247	19%
新宿区	204	18,278	13%
中央区	109	15,904	11%
千代田区	76	14,050	10%
その他	1,015	66,578	47%
合計	1,536	141,057	100%

2018年『東京都福祉・衛生統計年報』より作成

### 3. 先行研究

大学生による観光ボランティアガイド実践例として、千葉県鴨川市大海地区ツアーにおけるボランティアガイドについて地域の観光的活用の側面からの横山(2009)が実践例を研究している。秦(2016)は大学生のような若い世代に地域の魅力を知ってもらい、それを発信する「街歩きガイド」の役割を担ってもらうことによって、地域への興味関心や愛着を育むことに有効であることが示唆される結果を得ている。また地本(2016)は、岩手県盛岡市を事例に、まち歩きを「ガイド型まち歩き」と「非ガイド型まち歩き」に区分し、両者の比較によって旅行体験の志向の差異を検討し「ガイド型まち歩き」では歴史や人に対する思考が強く、まち歩きに対して効率性を求めた一方で、「非ガイド型まち歩き」は自然への志向が強く、まち歩きに対して時間消費性を求めていると結論づけた。稲葉(2017)は着地型観光に目を向け、まちなかを歩いて回る「まち歩き観光」と「観光地スタンプラリー」という2つのまち歩きの手法を比較することで、まちなか観光に求められている機能についての考察をおこなった。

### 4. 東京都港区芝地区

港区は「芝地区」、「麻布地区」、「赤坂地区」、「高輪地区」、そして「芝浦・港南地区」の5つに分かれ港区のホームページに記載されている。港区産業・地域振興支援部、観光政策担当が発行している「港区観光ガイドブック」では、港区を8つのエリアに分けている。芝地区は「芝・虎ノ門エリア」と「新橋エリア」と2つに分かれているが、当学周辺の観

光を考慮すると、この「新橋エリア」には空港から直結の東京モノレール「浜松町駅」や京浜急行電鉄から直接乗り入れている都営浅草線の「大門駅」と「新橋駅」があるため、本稿では「芝・虎ノ門エリア」と「新橋エリア」の両方を含めた「芝地区」を観光エリアの対象とした。またこれらの最寄り駅の近くにある「芝浦・港南地区」内にある一部の観光対象も観光コース設定上に必要な場合は有効とした。芝地区は、港区の北東に位置し、北に中央区・千代田区、東は東京湾に接する場所に位置している。芝地区の地形的特色として、東側に東京湾に面した沖積低地・埋立地、西側に武蔵野台地に連なる飯倉大地・三田段丘と呼ばれている大地群からなる。また自然の山では23区最高峰となる標高25.7mの愛宕山がある。その一方23区内で最も標高が低い海拔0.08m地点となっている浜松町駅前ガード付近も芝地区に位置していることから、大地と低地が混在しており、その境には数多く坂がある区内でも起伏に富んだ地区である。

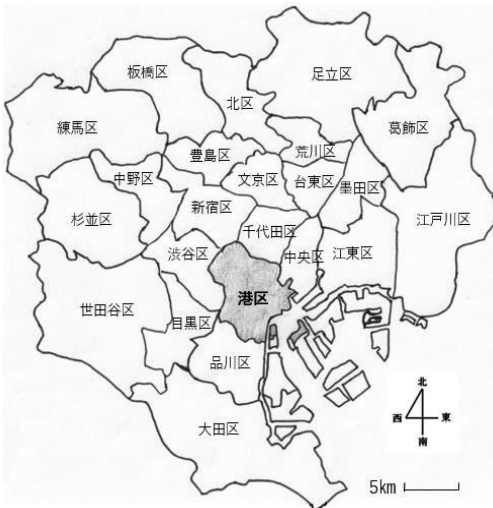
観光資源として芝地区には都内最大級規模の丸山古墳があり、はるか昔から人々の生活が営まれてきた場所であることがわかる。江戸時代に入ると多数の大名屋敷や旗本屋敷、江戸幕府の菩提寺である増上寺も立地した。江戸一の展望台と言われた愛宕神社や大久保家上屋敷であった旧芝離宮恩賜庭園など多くの神社仏閣や歴史的建造物など今でも数多く残されている。合わせて海岸通りには魚河岸ができ、五街道の中でも最も賑わっていた東海道に沿って町人地が出来ていくなど庶民の暮らしの場も整った。芝大神宮の「芝神明のだから祭り」などの年中行事も今でも地元で息づいている。このお祭りは9月の初旬に11日間に渡り続く日本一長い期間開催されるお祭りである。江戸時代に創業し今も営業を続けるいわゆる「老舗」と言われるお店も数多く残る。

明治時代に入ると、新橋～横浜間に日本初の鉄道が敷設され、芝地区や周辺には外国人居留地をはじめ外国公使館、赤煉瓦造の勤工場などができ洋家具職人が集うなど西洋文化もこの芝地区に根づいていった。

1958(昭和33)年には長い間東京のランドマークとして親しまれている「東京タワー」が芝地区に完成し、今でも年間来塔者数約500万人と人気の観光

施設であり、多くの観光客が訪れる。このように港区芝地区には日本と西洋文化が共存し新旧の観光対象が豊富に点在していることがわかる。

虎ノ門エリアは再開発により新たな街の整備と街づくりがおこなわれている。森ビル株式会社2011年02月28日のニュースリリースによれば、虎ノ門エリアは環状第二号線の道路計画は、1946（昭和21）年に新橋から神田佐久間町までの約9.2kmの区間で都市計画決定されていたが、新橋・虎ノ門区間に関しては、実現を見ないまま長い期間が経過した。1989（平成元）年の立体道路制度の創設により、道路整備に併せて再開発ビルを整備することが可能となり、当区間の事業実施に向けた合意形成が進み、虎ノ門エリアの再開発が始まったと記されている。2014（平成26）年に虎ノ門エリアのランドマークとして虎ノ門ヒルズが開業し、国際会議場、飲食施設、アメリカに本拠地を置くハイアットホテルズアンドリゾーツの高級デザインホテルブランドの「アンダース東京」などが施設内にあり、芝地区の新たな観光対象として注目を浴びている。さらに虎ノ門エリアの開発は続き、車線とゆとりある歩行者空間と街路樹が整備された街づくり、東京メトロ日比谷線の霞ヶ関駅と神谷町駅間に2023（令和5）年「虎ノ門ヒルズ駅」が開業を予定しており、交通インフラと一体となった大規模複合再開発がおこなわれている。



東京都の地図を参考に筆者が作成

図1 東京都23区



東京シティマップの地図を参考に筆者が作成

図2 港区の5つの地区

## 5. 港区観光ガイドブック

港区の公式ホームページで紹介されている旅行者向けの観光ガイドブックは、区内の観光目的に合わせて多言語で7種類用意されている。総合的に港区の観光対象を紹介する冊子になった観光ガイドブックをはじめ、見開きの地図タイプの観光ガイドブックもありどれも港区全体の観光資源と観光施設を掲載している。また冊子だけでなく港区のウェブサイトからもダウンロードできるようになっている。

観光コースを作成するにあたり、学生にこれらのガイドブックを貸し出すと共に、インターネットにてダウンロードできる旨も伝えた。港区の観光ガイドブックには歴史、伝統工芸、バリアフリーに焦点を当てた観光ガイド冊子も用意されているため、学生が芝地区の観光対象を具体的に知り、そして観光コース作りとテーマ設定を決定する際の良い資料として大いに役立った。

### ① 『るるぶ特別編集 港区』日本語版

JTBパブリッシングが制作する「るるぶ」の特別編集として、港区を5つのエリアに分けて観光地や観光施設を詳細に写真と共に紹介している。エリアごとの観光名所などをお薦めの街歩きコースに沿って紹介されているため、観光客が観光対象間をどれくらいの時間で移動できるかなど道順のように描き、分かり易く所要時間などが掲載されている。目的地への移動し易い工夫もなされ、写真も多く掲載されているため、観光対象のイメージも把握しやすく、

合せて住所、交通手段、休みなども掲載されている。携帯端末の地図アプリなどを使用すれば更に効率よく観光対象を巡ることができる。

② 『港区観光ガイドブック』日本語版、英語版

このガイドブックでは港区を8つのエリアに分類し、それぞれのエリアの観光対象の紹介とそのエリアを2時間から3時間で巡る散策コースを提案している。またそれぞれのエリアの地図上に散策コースの動線が赤い線で記されているため、観光者がどういう経路を通して観光しているかが一目瞭然である。

③ 『港区商店街まちあるきMAP、芝・三田エリア』日本語版、英語版

港区商店街まちあるきMAPは港区を8地域に分け各エリアごとに日本語版、英語版を発行している。今回調査をする芝・三田エリアの港区商店街まちあるきMAPには、点在する9つの商店街の飲食店名を商店街ごとの地図上に標示し、その商店街の魅力や特徴を紹介している。また芝・三田エリアの代表的な観光対象と「芝の今昔物語」と題した港区役所を起点とした街歩きルートを紹介している。

④ 『港区歴史観光ガイドブック』日本語版、英語版

現在の港区の地に人々が生活を始めてからの歴史的テーマの観点から港区の観光対象を紹介している。「都会にひそむ古代のロマン」では、芝丸山古墳、縄文時代後期の貝塚が発見された三田台公園など、古代にゆかりのある観光対象が紹介されている。コースルートも併記され紹介されている。同様に旧芝離宮恩賜庭園などの観光対象が含まれる「名園でたどる時代の旅」、忠臣蔵、幕末や明治維新に起きた事件の舞台となった場所やゆかりのある人物に関わる観光対象を紹介する「港区事件簿を追って」、幕末当時はアメリカやイギリスの公使館で現在は寺院となっているが幕末の外交史跡に着目した「時代の夜明けをたどる旅」、尾崎紅葉や島崎藤村、志賀直哉などの文豪の生誕の地や旧宅跡などを巡る「文人が愛したまちをたどる旅」と港区の歴史と伝統を感じることができるように観光対象が紹介されている。

⑤ 『バリアフリーまち歩きMAP in 港区』日本語版、英語版

芝コースを含む港区11箇所の人気観光対象をバ

アフリーで散策できるようにコース設定されている。障害者、高齢者、ベビーカーなどを使用する乳幼児連れの方々がストレスなく移動できるように、交通機関、公衆トイレ、バリアフリー設備情報と坂道には目安の傾斜度が地図に記載されているため、人気の観光対象を安心して観光、街歩きできる。

⑥ 『港区の伝統工芸』日本語、英語併記

江戸表具、指物と呼ばれる木製の箱物類、三味線や琵琶といった日本の楽器制作など、大都会港区で制作されている伝統工芸品や楽器を紹介している。

⑦ 『港区観光マップ』日本語、英語、中国語、韓国語

見開き1枚約60センチメートル四方の地図で、両面に合せて50の観光対象を地図上に番号で示している。折りたたむと10センチメートル四方の大きさになり、持ち歩きに便利になっている。

このように港区の観光対象を紹介した観光ガイドブックは冊子や観光マップをはじめ前述の通り、歴史、バリアフリーなどのテーマに合わせた観光ガイド冊子も用意されている。言語も英語、中国語、韓国語に対応し、東京モノレール浜松町駅の港区観光インフォメーションセンター、港区役所、港区の各地区の総合支所、港区内図書館などで無料にて配布されている。

## 6. 学生による港区芝地区の観光コース作成

「ツーリズムスタディA」（履修者1年生84名）、「観光学B」（履修者2年生112名）に6種類の港区の観光ガイドブックを利用して学生による観光ボランティアガイドとして全行程3時間で案内する観光コースを作成してもらった。観光コース作成の際には以下の条件に沿ってコース設定するようにと指示した。

- ① 観光コースの出発地点をJR東日本「日町駅」、「浜松町」、「新橋」、都営浅草線「泉岳寺駅」、「三田駅」、「大門駅」、「新橋駅」、都営三田線「芝公園駅」、「御成門駅」のいずれかから出発すること。
- ② 観光コースは、「芝地区」を観光エリアの対象とする。合せて出発駅近くにある「芝浦・港南地区」内にある一部の観光対象も観光コース設

- 定上に必要な場合は有効とする。
- ③ 観光コースはいずれかの駅で終了とすること。ただし東京タワーなどの観光施設内で時間を費やしたい旅行者も多いと考え、その場合は最後の観光対象で終了することも可能とする。
- ④ 全行程約3時間とし、10時～13時、14時～17時のいずれかの時間帯での観光とすること。
- ⑤ ツアーのテーマを考え、そのテーマのストーリー性に沿った内容の観光対象を抜粋すること。
- ⑥ 観光コースの効率性を考え、観光対象までの予定移動時間、観光対象での予定所要時間を決めること。どうしても移動に時間がかかる場合には鉄道、港区コミュニティバス、コミュニティサイクルの利用も可能とする。
- ⑦ 選択した観光対象でどのようなガイドをするのか、合せてお薦めポイントなどを記載すること。
- ⑧ 観光対象に飲食店は含まないこと。どうしても紹介したい場合は、ツアー終了後などにお薦めの飲食施設として案内すること。
- ⑨ 外国人旅行者の観光ボランティアガイドの設定も可能とし、その際には観光対象を英語でどのようにガイドするかも英語で記載すること。

このような条件に従って、港区の観光ガイドブックに紹介されている観光対象を見ながら観光コースを設定してもらった。

## 6. 1 観光コースの分類

1年生79名（回収率94.0%）、2年生104名（回収率92.9%）、全体183名（回収率93.4%）が観光コース作成をおこなった。指示通りに作成された有効な観光コースは、168件であった。

観光ツアーを整理していくと、多少の観光対象の違いがあるものの、大きく3の観光コースに分類することができた。

### ① 歴史をテーマとする観光コース

代表的なコース例

観光対象	移動時間	所要時間
大門駅	—	—
芝大神宮	5分	5分
芝公園	10分	10分
芝丸山古墳・丸山貝塚	5分	5分

増上寺	5分	15分
東京タワー	15分	45分
愛宕神社	30分	15分

ツアーのテーマとしては、「歴史的スポット散策」、「日本の歴史に触れる」、「歴史と風景を楽しむツアー」などが多く見られた。観光コースの中でもこの歴史をテーマとしたものが168件中141件と大半を占めた。

歴史をテーマとした観光コースの出発地点として「大門駅」が一番多く51件の観光コースの起点となっていた。「大門駅」から出発する観光コースは最初に「芝大神宮」を訪れ、「芝公園」、「増上寺」、「東京タワー」を巡る観光コースが一番多かった。「芝丸山古墳・丸山貝塚」は「大門駅」から出発する歴史をテーマとする観光コースでは観光対象に含むものが21件であった。「芝公園」を経て「増上寺」に向かう場合、「芝丸山古墳・丸山貝塚」に立ち寄ると全体的なコースから少々離れてしまうからと考えられる。「芝公園駅」を出発地点としている観光ツアーは16件で、その全てがこの「芝丸山古墳・丸山貝塚」から始まり、「芝公園」、「増上寺」、「東京タワー」と続くコースは、進路を北へと一定の方角に観光対象を訪れるため「芝公園駅」から3分程度で行く事ができる「芝丸山古墳・丸山貝塚」を最初の観光対象としたと思われる。

「大門駅」から数分のところに位置する「浜松町駅」から始まる観光コースは45件であった。「浜松町駅」から始まる観光コースでは、最初に「浜松町駅」の東側にある「旧芝離宮恩賜庭園」を訪れ、その後「芝公園」、「増上寺」、「東京タワー」と訪れる観光コースが45件中43件であった。2件は「芝大神宮」にも立ち寄るコースであった。

その他の歴史をテーマとする観光コースの出発点としては、「三田駅」28件「田町駅」3件「御成門駅」3件「泉岳寺駅」2件であった。「三田駅」から出発する観光コースで19件がそのまま北上し、「芝公園」、「増上寺」、「東京タワー」と訪れる観光コースであった。「三田駅」から「芝公園」と繋がる道路沿いには当学が位置しているため、通学で利用している学生も多く、「三田駅」を身近に感じ観光コース設定したものとする。また「三田駅」か

ら出発するその他の9件の観光コースには、「三田駅」の地上出口近くにある「勝海舟・西郷隆盛会見の地跡」の石碑を訪れるものだった。前述の通り石碑は工事のため一時的に別の場所で保管され写真のみ掲載されている。観光コースを作成する際に、「勝海舟・西郷隆盛会見の地跡」は写真のみと伝えていたため、「三田駅」を起点とする観光コースであっても、28件中9件のみが「勝海舟・西郷隆盛会見の地跡」をコースに組み込んだものとする。実際に石碑を見ることができれば、もう少し「勝海舟・西郷隆盛会見の地跡」を訪れる観光コースもあったのではないだろうか。同様に「田町駅」を起点とする3件の観光コースも、「芝公園」、「増上寺」、「東京タワー」となっていて、「勝海舟・西郷隆盛会見の地跡」の言葉は見つからなかった。

「御成門駅」を出発地点とする3件の観光コースは、「芝丸山古墳・丸山貝塚」、「芝公園」、「増上寺」、「東京タワー」を訪れるもので、それぞれの観光対象の所要時間を30分以上と写真撮影時間などに考慮した、ゆったりとした観光コースとなっている。

「泉岳寺駅」を出発する2件の観光コースは「泉岳寺」を訪れ、一つは徒歩で「慶應義塾大学」を経由して「芝公園」に向かうもの、もう一つは「泉岳寺」を訪れた後に、電車で「三田駅」まで移動し「芝公園」に向かうというものであった。「泉岳寺」には「赤穂義士記念館」と「浅野長矩・赤穂義士の墓」があり忠臣蔵でも有名な寺院である。テレビ放映される時代劇が減少し、多くの学生が元禄赤穂事件と年末に必ずと言うほど放送されていた忠臣蔵を知らない世代なのか、忠臣蔵の話題を出しても反応する学生は皆無だった。そのため『港区歴史観光ガイドブック』で元禄赤穂事件に関するテーマの内容が記載されているが、「泉岳寺」と元禄赤穂事件に関するテーマの観光コースは見当たらなかった。

観光コースの解散となる駅は、殆どの観光コースが出発駅に戻るコースとなっていた。その中で「東京タワー」で解散する観光コースが2件、3時間が出発の駅まで戻れない観光コースのみ時間を勘案して最後に訪れた観光対象の最寄り駅になっていた観光コースも2件のみの計4件であった。

## ② 港区の新旧をテーマとする観光コース

代表的なコース例

観光対象	移動時間	所要時間
新橋駅	—	—
旧新橋停車場 鉄道歴史展示室	5分	20分
カレッタ汐留46階展望スペース	5分	30分
浜離宮恩賜庭園	10分	30分
共同通信社ニュースアート	10分	30分
日本テレビ	10分	5分
新橋SL広場	5分	5分

「新橋駅」を起点とする観光コースのテーマとしては、「港区の絶景スポット巡り」、「現代と昔の行き来ツアー」、「日本の四季、シンボルを味わう」など港区の新旧の観光対象を織り交ぜそれぞれの風景を楽しむ観光コースが中心であった。

「新橋駅」は28件の観光コースの出発点となっていた。このうち2件の観光コースは、「新橋駅」より東京メトロ銀座線にて「虎ノ門駅」に移動するものであったので③芝地区のシンボリックな建物を訪れる観光コースに組み入れた。8件については、「ゆりかもめ」に乗ってお台場方面に向かう内容のため、今回の「芝地区」を案内する観光コースとなっていないため、無効とし18件のみを対象とした。「新橋駅」を起点とする観光コースの場合、15件が汐留側の「旧新橋停車場 鉄道歴史展示室」や「日本テレビ」といった観光対象から観光コースが始まっている。3件が日比谷改札口前の「新橋SL広場」から始まる観光コースであったが、場所の説明のメモ欄には「待ち合わせがしやすい」というコメントがあり、その後、汐留側に移動する観光コースとなっていた。

どの観光コースも「浜離宮恩賜庭園」をコースに取り込み、「新橋駅」からの往路または復路で「旧新橋停車場 鉄道歴史展示室」、「カレッタ汐留46階展望スペース」、「共同通信社ニュースアート」、「日本テレビ」などを訪れる観光コースであった。「浜離宮恩賜庭園」を除くこれらの観光対象は全て入場料無料で見学でき、場所の説明のメモ欄にも「入場無料で見学」といったコメントが多く記載されており、金銭的な負担を少なくし観光を楽しんでもらいたいという学生の気持ちが表れている観光コースとなっ

ている。また6件の観光コースでは、「浜離宮恩賜庭園」の庭園の見学後、最寄りの都営大江戸線「汐留駅」から「赤羽橋駅」まで移動し、「芝公園」、「増上寺」、「東京タワー」をめぐる観光コースもあった。

### ③ 芝地区のランドマークとなる観光対象を訪れる観光コース

代表的なコース例

観光対象	移動時間	所要時間
芝公園駅	—	—
芝公園	5分	10分
増上寺	5分	15分
東京タワー	15分	45分
愛宕グリーンヒルズMORIタワー	20分	15分
虎ノ門ヒルズ森タワー	10分	45分

この観光コースに分類した出発地点と観光コースは「芝公園駅」6件、「御成門駅」1件、「虎ノ門駅」2件であった。観光コースのテーマとしては、「日本の歴史とシンボルを体感」、「眼福の旅」、「映える写真を沢山撮る」など、「芝公園」、「増上寺」、シンボリックな建物となっている「東京タワー」、「虎ノ門ヒルズ森タワー」、「愛宕グリーンヒルズMORIタワー」の観光施設をめぐる観光コースとなっている。この観光コースは移動距離と移動時間が他の観光コースよりも長い。そのため「芝公園駅」起点の2件の観光コースでは、コミュニティサイクル「港区自転車シェアリング」を利用して移動する内容になっており、全体の観光コースの中でコミュニティサイクルを利用した観光コースはこの2件のみであった。

### 7. 港区芝地区でおこなわれている観光ツアー

港区では(社)港区観光協会の港区観光ボランティアの会が主催する観光ツアーと芝地区の22軒の老舗が集まった芝百年会が主催する「老舗とまち歩き」などの無料の観光ツアーがある。開催は不定期で、それぞれホームページ上で募集をおこなっている。英語のツアーは英字広報紙「Minato Monthly」と(社)港区観光協会英語対応ホームページで対応している。

地域の魅力を熟知した観光ボランティアガイドによる観光ツアーは、観光者のみでまち歩きすると

は異なり、観光対象のガイドブックには記載されていない歴史的背景や魅力的な話を聞くことができる。また通常では入場することができない場所などにも足を運ぶことができ、その地域の観光対象を十分に理解し、存分に楽しむことができる。

### 7. 1 港区観光ボランティアの会

港区観光ボランティアの会では、港区の多彩な魅力を発信するため、国内外から訪れる観光客に対して、テーマに沿って港区をめぐる30名程度が参加出来る無料のツアーをおこなっている。参加者募集ツアーは不定期におこなわれ、日本語のツアーだけではなく、英語のツアーも用意されている。2018(平成30)年は2,000名以上の方々がツアーに参加し、約140名のボランティアガイドが港区内の観光案内活動で活躍している。また希望する日時に15の観光コースから選択しガイドを派遣する「ガイド派遣サービス」も合わせて実施している。

#### 7. 1. 1 ガイド派遣サービス

芝地区を巡る観光コースは5つ用意されている。

- ① 赤穂義士の旧跡をめぐる：赤穂義士にまつわる旧跡を、さまざまな角度から体験。
- ② 大使館めぐり・虎ノ門コース：スペイン、スウェーデンなどの大使館をめぐる。
- ③ 大使館めぐり・三田コース：オーストラリア、イタリアなどの大使館をめぐる。
- ④ 芝公園・愛宕コース：増上寺から東京タワーを眺めながら愛宕神社へ。
- ⑤ 橋・浜松町コース：新橋駅SL広場から汐留シオサイト、芝大神宮、浜松町。

#### 7. 1. 2 港区観光ボランティアガイド育成講座

港区では2010(平成22)年から観光案内活動をする港区観光ボランティアガイドの育成と活動支援をおこなっていて、港区観光ボランティアガイドになるためには、港区が実施する港区観光ボランティアガイド育成講座を修了する必要がある。研修期間は約8ヶ月に渡り、18歳以上(高校生は不可)の人が対象で、以下の条件を満たす必要がある。

- ① 国内外からの観光客を案内し、港区の魅力を発



信できること。

- ② おもてなしの心を持ち、協調性や積極性をもって活動できること。
- ③ 徒歩数時間のガイドができること。
- ④ 15回の講座に出席できること。

(港区ホームページより抜粋)

ボランティアガイドに一定の研修制度と観光ガイドとしての資質を求めていることから、ボランティアガイドによってのツアー内容にばらつきないように均等な人的資源を確保しているのではないかと考える。

## 7. 2 芝百年会

芝地区の22軒の老舗が集まり、2016年に創設された。芝百年会のホームページによると、新しいIT時代の社会の維新を見据えて、22軒の老舗が集い、芝地区の地域経済活性化への貢献や老舗文化の発信、老舗の相互交流と老舗学の研究を深めるために創設されたとある。「旧いことを残しながら、新しいことに取り組むまち」とし、温故知新のまちづくりを未来の視点から考え、老舗のビジネスと文化を研究、発信することで、地域の魅力づくりと地域経済の活性化に取り組んでいる。

明治時代以降に西洋文化もこの地に根付いたため、芝百年会の会員の老舗を佃煮、蕎麦、和服、刀剣などの「和」の老舗と洋酒、西洋建築金物、珈琲豆を扱う「洋」のそれぞれの老舗があるのもこの港区芝地区の老舗の魅力である。時代を超えて受け継がれている文化や伝統があり、和と洋が上手く混在し魅力的な多数の観光資源を備え多彩な観光を楽しむことができる。

### 7. 2. 1 芝百年会の「老舗とまち歩き」

芝百年会の公開講座「老舗とまち歩き」は二部構成になっており、最初に芝地区の歴史や老舗に関する座学を受け、まち歩きの前に基礎知識を身につける。その後、芝のまち歩きをおこない、そのテーマに沿った芝百年会の和洋の文化背景を持った老舗店を訪ねる。この講座は創設後、年に数回のペースで現在までに8回の公開講座がおこなわれている。公開講座の参加費は無料で、通常外国人を5名含む20

名の募集をおこない、常に人気の講座である。

## 8. 結論と課題

本学の学生が考える芝地区の学生観光ボランティアガイドとしての観光コースは、「芝公園」、「増上寺」、「東京タワー」の3つの観光対象は、168件中156件が訪れる港区芝地区観光コースの必須の観光対象であった。出発の起点となる駅が異なっても、芝地区を面と捉え観光コースを作成する場合には、この3つの観光対象は港区芝地区を訪れる観光者に足を運んでももらいたい魅力的な観光対象であることがわかる。この3つの観光対象を訪れなかった観光コースは、「新橋駅」を出発し新橋・汐留を観光する12件のみであった。

出発地点とする駅は、歴史的観光対象の集約している「大門駅」または「浜松町駅」が圧倒的に多い。合せて本学の学生が通学として利用している駅から出発する観光コースも多く見られ、観光ボランティアガイドとして案内していく中で、移動時間など通学の経験値から推し量りやすく、馴染みのある駅から観光コースを始めたいと思う気持ちの表れではないだろうか。今回の観光コース作成では羽田空港からの観光者なども想定したため、羽田空港からアクセスしやすい駅と芝地区内の駅を起点とした。実際に学生に観光ボランティアガイドをしてもらうのであれば、駅から出発するだけでなく、本学を起点にした観光コースを作成するのも有効である。昨年おこなった本学を起点に観光コースを作成した際には、移動時間の見積もりなど大学に近い観光対象ほど正確にコース作成されているものが多かった。今回の観光コースも、本学周辺の観光コースが多く、新橋・汐留エリアや虎ノ門エリア方面の観光コースが少なかったことでも理解できる。

またただ単に、まち歩きをするだけでなく学生観光ボランティアガイドとして、観光対象を案内する知識が必要である。港区観光ボランティアガイド育成講座のような育成と活動支援をしている機関と手を組み人的資源の育成に繋げることも大事だと考える。学生にとって身近な観光対象をより理解することで、今まで何気なく見ていた景色が大きく変わる契機になるのではないだろうか。合せて芝地区に点

在する旅行者にはあまり知られていない老舗などにも目を向けて、地域の魅力を発信していくことで地域の活性化の一翼を担えるのではないかと考える。

今回は芝地区の観光コース作成という大枠を設けたために、別の港区の地区に行くなど不採用とした観光コースがあった。しかしその中にはお台場エリアの魅力的な観光対象を紹介しているものや、港区のアニメの聖地を訪れるツアーなど興味深いものもあった。

本学の学生による観光ボランティアガイドをおこなうのであれば、最初の取組みとして、大学周辺の観光対象を中心にガイドすることから始めることが、学生にとって取組み易い内容となることが学生による観光コース作成によって明らかになった。さらに観光対象の知識を深める事によって、学生観光ボランティアガイドとして将来活躍できる可能性は高いと考察する。学生による観光ボランティアガイドを育成しながら、港区が発行する観光ガイドブック、港区観光ボランティアの会や芝百年会の老舗とまち歩きツアーなどが、学生とSNSなどを活用し情報発信され広がっていくことで、港区の魅力が世界に広がっていく契機にもなると考える。

- ・国土交通省航空局；平成29年度国際航空旅客動態調査, 2017
- ・東京都福祉保健局；福祉・衛生統計年報（平成29年度）, 2017
- ・福祉保健局；福祉・衛生統計年報（平成29年度）, 2018
- ・港区芝地区総合支所；「港区基本計画 芝地区版計画書」
- ・港区立港郷土資料館；「港区近代沿革図集芝・三田・芝浦」, 2007
- ・東京都港区教育委員会；「港区の文化財・第3集 増上寺とその周辺」, 1967
- ・東京都港区教育委員会；「港区の文化財・第11集 三田と芝 -その2-」, 1975
- ・山村順次「大学生による観光ボランティアガイドの実践—城西国際大学観光学部主催の鴨川市太海地区ツアー（特集 観光ボランティアガイド）」（2009）地理54（9）PP.34-41
- ・秦康範、酒井厚、大山勲、荒木功平「「まち歩き」を通じた地域への興味関心や愛着を育むアクティブラーニングの試行」（2016）第31回日本観光研究学会全国大会学術論文集 PP.269-272
- ・地本真菜、山本清龍「ガイドの有無によるまち歩き観光体験の質と観光志向の差異」（2016）第31回日本観光研究学会全国大会学術論文集 PP.277-280
- ・稲葉雅子「まちなか観光に関する一考察—まち歩き観光とスタンプラリーの事例から—」（2017）第32回日本観光研究学会全国大会学術論文集 PP.217-220
- ・前田 勇「現代観光総論」（1995）学文社 PP.198
- ・森ビル株式会社ニュースリリース「環状第二号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業Ⅲ街区」着工に向け、本日、安全祈願式を実施」（2011年02月28日）
- ・東京都；「平成30年国・地域別外国人旅行者行動特性調査報告書」, 2018
- ・東京都港区公式ホームページ（最終検索日：2020年1月5日）  
<https://www.city.minato.tokyo.jp/>
- ・（社）港区観光協会ホームページ（最終検索日：2020年1月5日）  
<https://visit-minato-city.tokyo/ja-jp/>
- ・芝百年会 | Shiba Centennial Society ホームページ（最終検索日：2020年1月5日）  
<http://www.shiba-shinise.com/>
- ・港区自転車シェアリングホームページ（最終検索日：2020年1月6日）  
<https://docomo-cycle.jp/minato/whatiscs/>